



公明新聞を手にして購読者を訪ね、実績を訴える峯岸議員

い。自分の壁を破ろう」と決意し直し、公明新聞と購読申込書を入れた「専用かばん」を持ち歩きながら、市民相談などで知り合った人に必ず購読を勧めました。

その結果、翌年5月に初めて三けたとなる107部の実配部数を達成で

党員講座

9、10、11月は公明新聞の購読推進強化月間。取り組みの柱の一つが、まず全議員が率先して実配目標部数を達成することです。7月に先駆

した愛知・江南市の古田みち子市議(4期)、東京・日野市の峯岸弘行市議(2期)に活動の手記を寄せてもらいました。

公明新聞拡大で

先駆の取り組み

手記 まず議員が率先して

東京・日野市議 峯岸 弘行

2006年の初当選から半年後、当時の神崎武法代表から手紙が届きました。激励の手紙かと思

拡大。その積み重ねで3年後には、実配部数100部を達成できました。今年7月の実配部数は110部です。

「前にも購読してもらったので、またお願いします」と依頼しています。実績をつくって、公明

もう一つのポイントは、「選挙の時は公明新聞を拡大する絶好のチャンスだ」ということです。

「推進月間」と決め、あらゆるチャンスを活用し、「公明新聞の購読をお願いします」と言い続けてきました。

実績訴え、購読を依頼 選挙も絶好のチャンス

冷や汗が出ました。しかも党総支部の機関紙推進部長に就いていたため、

「まず自らが実配部数の

ていた方方は2000人を超えます。一度購読者になっていただいた方は再度、購読者になって

新聞購読のお願いに行くこともポイントです。「たんすの上の荷物を取ろう」として転倒した」という

今年2月に市議選がありま

